

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

不登校対応巡回教員は、校内に設置されたSSR（スペシャルサポートルーム）とSTEP（学習支援室）の2つの部屋を活用し、生徒の心理状況や学習ニーズに応じた支援を行っている。これにより、生徒が安心して過ごせる居場所を確保し、学び直しや人間関係の再構築を支援している。

##### ・SSR（スペシャルサポートルーム）

生徒が落ち着いて過ごせる環境を整備し、心理的安定を図っている。個別相談やカウンセリングを実施し、悩みや不安を軽減する。学習面では、授業で理解できなかった内容を補習し、授業から取り残されないようフォローしている。

生徒同士の交流を促す軽い活動（カードゲーム、読書会など）を実施し、孤立感を減らす。

##### ・STEP（学習支援室）

学習を主軸とした支援を行い、集中できる環境を提供している。個別学習計画を作成し、達成感を得られる課題設定を実施するとともに各教科の質問への対応や、宿題・課題の支援を行う。

##### ・支援体制

金曜日以外は、校内別室指導支援員や不登校対応巡回教員が常駐し、継続的な支援が可能な体制を整えている。これにより、生徒は安心して利用でき、教室復帰へのステップとして活用されている。



#### 【取組2】(B中学校)

生徒の状況に応じて、授業に「安心感」、「自己決定の場」、「達成感」を取り入れるよう支援している。例えば、保健体育の授業では、難易度を選べる課題を設定し、教員が実演を交えて分かりやすく説明することで、生徒が自分自身に合った課題を選び、成功体験を重ねることができるよう工夫している。

#### 【取組3】(A中学校)

不登校対応巡回教員が、校内研修で不登校の定義や東京都の現状を周知し、不登校への理解を促した。さらに、事例検討やロールプレイを通じて、担任・学年・不登校対応巡回教員の職務内容や、生徒への効果的な声掛けを学ぶ機会を提供した。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（C中学校）

月1回の支援会議を行っている。校内別室につながったほうが良いと思われる生徒がいる場合には、臨時でケース会議を開催している。外出ができない、又は登校ができない状態になる前に学校に登校できるように早期の支援を図っている。

### アウトリーチによる支援（A中学校）

家庭訪問を実施し、保護者から不登校に至る経緯や現在の状況を聞き取り、ニーズを把握した。その上で、校内別室の利用や登校支援の方法を提示し、段階的な支援を計画した。結果として、定期的な校内別室への登校が定着し、学校とのつながりを回復することができた。

### 校内別室における支援（D中学校）

教室には入れない場合でも校内別室でクールダウンをして落ち着かせ、出席できる授業に参加している。



### デジタル機器を活用した支援（C中学校）

一人1台端末内の学習用コンテンツで学習内容の復習などを生徒個人が学習に取り組んでいる。今後は、生徒のニーズに合わせ、VLPを活用するなど、生徒の状況に応じた支援を行っていく。

### 関係機関との連携（全巡回担当校）

SSWやSCと連携し、家庭の状況や当該生徒の思いを把握し、共通理解を図って、信頼関係の構築に努めている。配慮が必要な生徒や保護者に対して、丁寧に対応することを心掛けている。

## 成 果

様々な取組をする中で、不登校から少しずつ学校へ登校することができるようになってきている。今後も継続して支援の充実に努めたい。

## 課 題

保護者との共通理解を図りながら、当該生徒への支援の充実を図っていくために、関係機関と連携を深めていく必要がある。